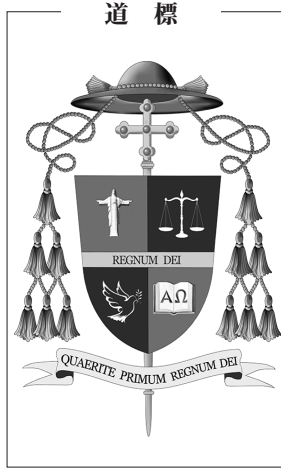




〒892-0841
鹿児島市照国町13-42
カトリック鹿児島教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



司教の手紙

ミサのカテケーjis ④

鹿児島教区司教 中野 裕 明

ご聖体と信仰共同体

教区の皆さま、お元気で
しょうか？
今回はミサの中でいただ
くご聖体と信仰共同体の関
係についてお話しします。
聖パウロはコリントの教
会の信者たちに司牧指針に
当たる手紙を書いていま
すがとても参考になります
から、その手紙の趣旨に沿
ってお話します。
皆さんもこのコリント第
1の手紙を読んでいただ
ければ幸いです。聖パウロ
は、ある人の通報を基に話
を始めます。

「さて、兄弟たち、わた
したちの主イエス・キリス
トの名によってあなたがたに勧
告します。皆、勝手なことを
言わず、仲たがいせず、心を
一つにし思いを一つにして、
固く結び合いなさい。わたし
の兄弟たち、実はあなたがた
の間に争いがあると、クロエ
の家の人たちから知らされま
した。」（1コリント1・
10）
争いの原因について次の
様に続けています。
「あなたがたはめいめい
『私はパウロにつく』『わ
たしはアポロに』『わたし
はケファに』『わたしはキ
リストに』などと言い合っ
ているとのこととです。キリ
ストは幾つにも分けられて
しまったのですか。」（同
上・12・13節）
そして、結論として聖パ
ウロに次のように言わせて
しまします。
「キリストがわたしを遣
わされたのは、洗礼を授け
るためではなく、福音を告
げ知らせるためであり、し
かも、キリストの十字架が
むなししいものになってしま
わぬように、言葉の知恵に
よらないで告げ知らせるた
めだからです。」（同上
17節）

て、洗礼の目的は、福音を
告げ知らせること、そし
て、日々、イエスの十字架
を大切にして生きることで
ある、と言いたかったのだ
と思います。
次のテーマは教会の中
での問題です。
「あなたがたが教会で集
まる際、お互いの間に仲間
割れがあると聞いていま
す。わたしもある程度そう
いうことがあるかと思
います。あなたがたの間で、
だれが適格者かはつきりす
るためには、仲間争いも避
けられないかもしれませ
ん。それでは、一緒に集ま

っても、主の晩餐を食べる
ことにはならないので
す。」（同上11・18・
20）
この背景を説明します。
当時信者は教会に集い食料
は配給されていたよう
です。ところが、
「食事のとき、各自が勝
手に自分の分を食べてしま
い、空腹の者がいるかと思
えば、酔っている者もいる
という始末です。あなたが
たには、飲んだり食べたり
する家がないのですか。そ
れとも、神の教会を見くび
り、貧しい人々に恥をかか
せようというのですか」
（同上11・22）
このような状況の中で、
聖パウロは、イエスの最後
の晩餐の制定の意味を解き
明かし、教会とはイエス・
キリストを救い主として信
じる者の信仰共同体である
という事を自覚させている
わけです。因みに、ここで
言う主の晩餐の制定は現在

のミサを指しています。
次に聖パウロは、この信
仰共同体を一つにしている
のは聖霊の働きであることを
教示しています。
「体は一つでも、多くの
部分から成り、体のすべての
部分は数多くても、体は一
つであるように、キリストの
場合も同様である。つまり、
一つの霊によって、わたした
ちは、ユダヤ人であろうとギ
リシヤ人であろうと、奴隷で
あろうと自由な身分の者であ
ろうと、皆一つの体となるた
めに洗礼を受け、皆一つの霊
をのませてもらったので
す。」（同上12・12・13）
そして、「あなたがたは
キリストの体であり、ま
た、一人一人はその部分で
す」（同上27節）と畳みか
けています。
つまり、ミサでキリス
トの体をいただく信者は皆、
キリストの体を形成してい
る、という事です。194
3年、教皇ピオ十二世は

「キリストの神秘体」と題
する回勅を發布し、当時の
教会論の基礎に据えまし
た。
最後に、ミサの式次第の
中で、私たちが聖体をいた
だく場面を思い出しまし
ょう。それは「交わりの儀」
と称されている部分でミサ
の最後の方になります。
主の祈りを全員で唱え、
教会に平和を願う祈りを司
祭が唱えたのち、全員で、
平和のあいさつを交わしま
す。「平和のあいさつ」が
形式ではなく、真に兄弟同
士の和解の意味を込めた心
からのものであれば素晴らしい
ことです。
その後、これからいた
く聖体は、世の罪を取り除
く神の子羊であるキリスト
であることを確認し、いよ
いよ聖体拝領となります。
実際に、聖体拝領する信者
はその度ごとにキリストを
救い主とする信仰共同体を
形成していくのです。

信徒の役割と司祭召命への取組

今年の教区評議会

10月8日（日）午後から
翌9日の昼まで、教区本部
を主会場に教区評議会が開

かれた。参加したのは教区
にある29小教区の内の27小
教区からの主任司祭、信徒
代表46人（内、オンライン
での参加17人）。

8日15時から始まった評
議会では、この日中野裕
明司教の司教叙階記念日
であることから、司教の健康
とこれからの活躍が祈願さ
れたほか、司教叙階式参加
後に亡くなったレデンプト
ール会の大松正弘神父の永
遠の安息のためにも祈りが
ささげられた。

会議では霧島彬神父（事
務局長）から評議会につ
いてオリエンテーションがあ
った後、李秉徳神父（鴨池

教会主任・青年担当）がW
YDRリスボン大会につ
いて、映像を交えながら報告
した。（2面に参加者の感
想を掲載）

その後は、「集会祭儀の
意味と司式者を養成するこ
との必要性」について司教
から講話があった。

中野司教は、シノドスの
歴史を振り返りながら、信
徒でできることに挑戦する
時代になっていることを集
会祭儀の司式者養成の意義
に揭げた。また早くから集
会祭儀の導入に取り組んで
きた徳之島地区教会やその
必要性が生じてきた小教区
の様子も報告された。

司教の講話後は、質疑応
答の時が持たれ、参加者た
ちの分かち合いのひと時と
なり、その後の懇親会も和
やかな交流の場となった。

司祭の消息

▼栃尾泰英神父（高松教
区・吉野教会主任司祭）
は、10月2日付で鹿児島
教区への移籍手続きが完
了した。



「マリアは出かけて、急いで山里に向かった」（ルカ1・39）をテーマに開催されたワールドユースデーリスボン大会（本大会は8月1日～6日）に鹿児島から4人の若者と同伴者として青年担当の霧島彬神父と李秉徳神父の6人が参加した。日本からの公式巡礼団のメンバーとして参加した6人は、ホームステイやユースフェスティバル、教皇ミサに参加し、世界中の同じ信仰を持つ若者たちとのふれあいで多くの実りを持って帰国した。教区報では2回にわたって彼らの感想を紹介したい。

霧島 彬神父

初めてのWYD参加でした。鹿児島の、そして日本中の誠実な青年たちと知り合い、関わることで多様な感謝するとともに、多くの面でご支援助けくださった教区と信者の皆様にも感謝申し上げます。

同伴者として特に三つのことを考えました。

①今回の巡礼の期間中、司教・司祭・助祭・修道者・青年がキリストについて、自分自身の信仰について、社会や教会について語りました。そして互いに助言を求めあひは与え、学び、ともに主を礼拝するために沈黙し、そして秘跡とともに告解と聖体により強められました。これこそが「ともに歩む」教会の基本的な姿だと感じました。

②ところで青年たちがWYD後も鹿児島で、世界で、このような信仰の歩みを続けていくためには、彼らに寄り添う同伴者・指導

者の存在が不可欠です。

「青年担当司祭」に限られせん。堅固な信仰に根差し、寛大に青年に奉仕する司祭・修道者・信徒がもつと必要です。

③よくよく考えてみると以上のことは青年だけでなくすべての人の信仰生活にも当てはまることです。WYDは確かに青年のための行事ですが、私は自分がこ

人々の優しさに触れた旅

ーいただいた恵みを活かすことが使命にー

WYDRリスボン大会 参加報告・感想

です。そのためにはまず自分自身の召命にもっと忠実になれるようにと決心を新たにしています。

私はWYDの存在を知った15歳の時からいつか必ず参加したいと思

水野あかり

教区からの参加者たち



分は真のカトリック信者と

言えるのだろうか、と頭の片隅で思っていました。そんな中WYDに参加し、日本や世界中から集まった青年たちと分かち合いをする

と、みんな私と同じように悩んだり、信仰とはなにかと自身に問いかけたり、一人ひとりが自分の生き方の中で生活と信仰をすり合わせていたりすることに気が付きました。

周りに決められる必要はなく、ただ自分の中で信仰と見つめ合い、自分にできることを少しずつ、それで良いのだと思うことができました。

私は同年代の信者が少ない中で育ちましたが、WYDでの体験は、世界そして

私は、英語があまり話せ

なかったけれど、ホストファミリーとの会話や外国の方に話しかけられた時に私が困っているときにすぐに通訳してくれるなど、会話の面では本当にいろんな人が助けてくれました。外国の方

も一生懸命日本語で話してくれたりして本当に嬉しかったです。

他に、坂が多くて私がキツそうにしていると手を引っ張ってくれ、「頑張ろう、あと少しだよ」と声をかけてくれたり、暑いと扇いでくれたりたくさんさんの優しさにも触れた2週間でした。

二つ目は、大勢のキリスト教の信者さんと交流ができたことです。

日本にも、こんなに私と同じ信者がいるのだと励ましてくれました。

そして日本の同世代の青年たちからは青年活動の刺激を受け、自分も故郷の教会に貢献したいと思いま

した。ぜひこれから青年になる子どもたちも私がWYDで体験したような素晴らしい信仰体験にいつか巡り会えたら、と思います。（聖心教会）

私は本大会を通して印象に残っていることが二つあります。

福留音巴

一つ目は、この2週間を通してですが、人の優しさに触れたこと、たくさん助けられたことです。

ナのみだとおっしゃって

いましたが、私たちのためにサンドウィッチを用意していただきました。

またユースフェスティバルにて、ホストファミリーが迎えにきてくださいました。が「何時まででも楽しんでいいよ」と言ってくれました。家の鍵を渡してくれました。

フェスティバルでは様々な国の方々と交流する事ができました。

日本人が珍しいのか、声をかけられる事が多かったです。中でも特に印象に残っているのが、イタリアの人達と共に、それぞれの国の言語で主の祈りを唱えた事です。人との繋がりをより強く感じる事ができました。

= 1 =

本大会の

教皇ミサについて、日

本語以外のミサは初めてでした

が、言葉や祈りの作法

が違っても、心は同じと感じました。

教皇様の言葉で特に心に響いたのが「恐れないでください」の言葉です。私自身、新しいことに取り組んだり、何かに挑戦したりする時、失敗を恐れ、自分を信じる事ができなくなる事が多々あります。ですが、この御言葉を聞き、失敗を恐れずに自信を持って取り組んでいこうと思えました。

また、ミサ内での主の平和の挨拶にて、近くにいた他国の人と挨拶ができました。互いの国での作法に則り、交流の輪を広げる事ができたと思います。

またポルトでは、コインランドリーのお姉さんの対

応が印象に残っております。

グループごとの振り返りの前にコインランドリーで洗濯をし、30分後に取りに来ると言い、洗濯物を預かってもらっていました。しかし、実際には1時間半以上経過しており、急いで洗濯物を取りに行きました。

店員さんは私があると微笑んで取り込んでくれていた洗濯物を渡してくださりました。時間に遅れた私を怒らずに迎え入れてくださいました。

最後に、私が行動を共にしていたBグループについてです。私の強い人が多く、最初はまとまるか心配に思う時がありました。一緒の時間を過ごす中で、お

11月23日

屋久島でシドッチ祭

今年も屋久島でシドティ神父の偉業を称え、その熱い宣教魂を学ぶ「シドッチ上陸記念祭」が勤労感謝の日の11月23日（木）屋久島教会と「神父シドッチ上陸記念碑」前広場、小島地区公民館で開催される。

今年の記念祭は、屋久島教会での中野司教司式のミサ（14時）、上陸記念碑前での町主催のセレモニー（15時）、公民館での交流会となっている。小島地区公民館での交流会では、中野司教と作家の古居智子さんによる講演が予定されている。

1708年10月11日に日本でのキリスト教解禁を願うために屋久島に上陸し、江戸のキリシタン屋敷で洗礼を授けた咎で獄死したジョバンニ・パチスタ・シドティ神父の列福・列聖運動を盛り上げるための一助となればと望んでいる。

互いが支え合い、助け合い、頼り合い、励まし合

い、苦難を乗り越えることができました。

私は強いが皆さんと人の事を気遣っていたのです。皆キリスト信者として一つとなっていたと感じま

す。サン・ヴィンセンテ・デ・フォロラ教会にて皆で主の祈りを唱えた事がとても印象に残っています。

今回のWYDを通して、他人を思いやることの大切さ、恐れずに挑んでいくことの尊さを再認識することができました。

非常に貴重な体験をする事ができた事、この機会に巡り合わせてくださった全てに感謝します。（指宿教会）

石田幹雄さん

石田望神父（レデンプトール会）の厳父・フィリッポ・ネリ石田幹雄さんが10月3日（火）、帰天された。75歳だった。

川内教会所属の幹雄さんは、教会の信徒リーダーとして精力的に活動し、皿山教会跡地の整備やレオ七右衛門の列福運動の盛り上げに尽力された。

短信

▼玉里教会

『毎日のミサ』（カトリック中央協議会）11月号の表紙を飾ったのは玉里教会の写真。所属の信者たちも「私たちの教会綺麗ね!」と驚きと喜びを隠せない様子だとか。

教区福祉施設協会研修会に参加して

聖園老人ホーム 田畑大輔



松田神父による講話を聞く

カトリック鹿児島教区福祉施設協会は、県内9施設で構成され、毎年職員のため研修会を開催しています。今回、3回目の研修会が教区本部を主会場に9月21日（木）に開催されました。研修会に

は現地に来られた方とオンラインを利用する方で総勢40人ほどの参加がありました。

私はオンラインでの研修に参加でしたが、コンベンツアル聖フランシスコ修道会の松田清四朗神父様より生配信でご講話（「フオーカシング」について）を頂き、そのあとに東京大司教菊池功大司教様によるご講話（事前収録済動画）を拝聴しました。

今回の研修会テーマは「あなたにしか聞けない内側の声に耳を傾ける」というものでした。私は老人ホームで働かせて頂いていますが、お年寄り一人ひとりが思っていることに何一つ同じものはなく、その方たちの心の声に耳を傾けて、一人ひとりを愛してあげられるように接していきたいと思いました。

研修の最後には、鹿児島教区長の中野裕明司教様に派遣ミサをあげていただき、皆でお祈りいただきました。最後になりますが中野司教様をはじめ教区本部の霧島神父様には現地でのご参加やお手伝いを頂き、ありがとうございました。

イグナチオの霊操⑤

紫原教会主任司祭 貴島丈弥



イグナチオは1523年の3月29日にローマに着き、アドリアノ6世から祝福を受け、2日後に聖地巡礼の許可をもらい、徒歩でヴェネチアへと向かいます。そして、9月4日に聖地に辿り着いたとされています（Au...39-41）。

エルサレムへ向かう道で、主はたびたびイグナチオに現れ、深く大きな慰めを与えられます（Au...44）。イグナチオは、エルサレムをはじめ他の聖なる場所を訪れるたびに大きな慰めを体験することにより、他の人々の魂の救いをも望むようになります（Au...45）。

ここで「観想と魂の助け、救い」というイグナチオの霊操の意義や目的に目覚めていきます。実際にイエス様の歩んだ道を歩むことで、イエス様のことを観想し、イエス様の目的である魂の救いにも思いを一致させていきます。『霊操』の第2週からイ

エスの生涯を観想していくことになるのですが、そこで重要になるのが五感を働かせることです（『霊操』121-125）。聖書の場面に自分自身を登場人物として登場させ、主やマリヤ様やヨゼフ様たち、他の登場人物たちと交わり、会話をするためにも役に立ちます。この五感を使つた祈りもイグナチオ自身が聖地で経験したことから来るものでしょう。

イグナチオはその後も聖地に留まることを望みますが叶わず、スペインへと引き返すことになりました。その後、『霊操』を広めるためには、哲学的、神学的な下地が必要であるという思いに至ります。

当時のスペインでは異端がはびこっていて（スペインだけではありませんが）イグナチオの『霊操』もその一つとみなされたからです。そして、彼は徒歩でパリに至り、ソルボンヌ大学で

入りに込めようのです。これに対して内に求める場合、そこには神様やイエス様がいらっしゃるのですからそうした類の霊が入り込む余地はありません。

《康由神父の聖書教室》67

神様の前に立つということ



では人が悪霊に支配される、また取り憑かれるといったこととの違いはどこにあるのでしょうか。思うにそれは自分を評価する判断基準が自分の外にあるのか、内にあるのということであると思われます。

外に求める場合、常に他者からの目を気にします。これにより自分の心が空っぽになり、そこに邪な霊が

言い換えれば自己肯定感をどこに求めるのかということでもあります。人間は財産や社会的立場といった外的なものにより満足を得たがるものです。しかしそ

れらはすべて相対的なものであり、移ろいゆくものです。これに対して信仰を持つということはイザヤの預言にある「わたしの目にあなたは価高く、貴く／わたしはあなたを愛し（ている）」という神様の言葉を信じ抜くことでもあります（43・4）。

これは絶対的なものであり、自分が他者からどう思われているのかは問題になりません。言い換えれば神様が自分を「まったく良し」としてくれている――嘉

ザビエル書院から
紙芝居をご希望の方は直接
「一般財団法人キリスト教視聴覚
センター（AVAO）」まで
※レンタル（CD付き）
〒169-0051
新宿区西早稲田2-3-18
Tel.03-3203-4121/FAX03-3203-4186

の勉強を始めます。イグナチオは既に38歳になっていました。そこで、フランシスコ・ザビエルやペトロ・ファブレらと出会い1540年にイエズス会を創立します。イグナチオは、1556年7月31日に亡くなるまで数多くの魂を助け救いました。
Au... Autobiografía (自伝) S. Ignazio di Loyola
お詫びと訂正
先月号の記事で誤りがあつたので訂正します。「ロヨラから出発したのは一九五二年の二月」と書いてしまいましたが、一五二二年の二月の間違いでした。申し訳ありませんでした。

会と催し 11月

1日（水）	諸聖人	2日（木）	死者の日	4日（土）	大野和夫神父命日（2016年）	5日（日）	年間第31主日	7日（火）	みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時	9日（木）	ラテラン教会の献堂	10日（金）	ガブリエル神父命日（1978年）	11日（土）	聖書の分かち合い・教区本部・14時	12日（日）	年間第32主日	17日（金）	福者レオ税所七右衛門殉教祭・川内教会・13時	19日（日）	年間第33主日	20日（月）	三木巖神父命日（2000年）	21日（火）	奄美司祭会	22日（水）	中野アカデミー・教区本部・14時	23日（木）	シドッチ上陸記念ミサ・屋久島教会・14時	25日（土）	聖書の分かち合い・教区本部・14時	26日（日）	王であるキリスト	28日（火）	司祭評議会・教区本部・14時	29日（水）	中野アカデミー・教区本部・14時	30日（木）	鄭成淳神父霊名（ヨハネ・ベルクマンス）	【司教日程】	1日ザビエル教会、2日常任司教委員会（東京）、5日ラサール会誓願式、6日レデンプトール女子総長面会、11日カトリック医師会、12日福者レオ殉教祭、13日16日韓司教交流、19日奄美の宣教司牧を考える会、22日中野アカデミー、23日シドッチ祭、26日谷山教会、28日司祭評議会、29日中野アカデミー	祈りの意向	教皇 教皇 日本教会 死者	【ウクライナから避難してきました！】	10月7日（土）、翌日のザビエル教会ミニバザーでの自作の絵の販売準備をしていたのはウクライナから避難して鹿児島に滞在しているルドルフ・ヴィクトリアさん。ヴィクトリアさんは、昨年3月、7年前に来日し鹿児島の日本文学学校に通っていた娘さん（日本人と結婚・本名ベロニカのニカを漢字表記で虹夏を名乗る）を頼って、下の娘・マリアさんと避難している。写真は孫のサチオちゃん。
-------	-----	-------	------	-------	-----------------	-------	---------	-------	----------------------	-------	-----------	--------	------------------	--------	-------------------	--------	---------	--------	------------------------	--------	---------	--------	----------------	--------	-------	--------	------------------	--------	----------------------	--------	-------------------	--------	----------	--------	----------------	--------	------------------	--------	---------------------	--------	--	-------	---------------	--------------------	---

「小教区発足50年」記念を終えて

玉里教会信徒たちの思い

添田義盛

7月17日(月) 玉里小
 教区発足50周年を祝う記念
 ミサが中野司教様、郡山司
 教様をはじめ13人の神父様
 をお迎えして厳かで喜びに
 あふれた温かい雰囲気の中、
 執り行われました。

ミサの中で聖書朗読を仰
 せつかった私です。緊張感
 に押しつぶされそうでした。

がこの上ない良い思い出となりました。また揭示用の「50周年の祈りの文」を書かせていただいたのも、ありがたい経験でした。

早々に実行委員会を立ち上げ、長期にわたり記念誌、記念品の準備など、ご尽力下さった藤山さんご兄弟、実行委員の皆様、森章子さんをリーダーとする女

上げたと思います。
す。ありがとうございます。
ございました。そして
てお疲れ様でした。

「ライフスタイルの転換に向けて、ともなる歩みを」回勅ラウドート・シと環境保護 吉川まみ 著 女子パウロ会 定価 1500円＋税

着座されて以来、地球の環境保護に取り組み姿勢の大切さを訴え続けてこられた教皇フランシスコが、環境問題について回勅「ラ

ウダート・シーとともに暮らす家を大切に」を公布されたのは2015年のこと。

国際社会も半世紀も前から環境問題の大切さに気づき、国際会議など開催するなどしてきました。

にもかかわらず進んで行

く環境破壊……。著者は本の中で環境問題の始まりから、ライフスタイル転換の必要性、環境教育と信仰との問題について分かりやすく、そして興味が持てるように解説をしています。

例えばコラム(3)「平成狸合戦ぽんぽこで考える(昭和)」では、開発によって居場所を失った狸たちが人間に化けて人間社会に紛れ込み、開発を止めさせようとしめします。しかし、その一方で人間の作り出した物にあふれた生活に陥っていく。その姿は、実に人間が環境を破壊していくようになった姿と似ています。

本の「はじめに」に書かれている環境問題に取り組むことについて「何と心躍る使命ではないですか」は、信仰の眼差しでライフスタイルの見直しに取り組みようとすると響いてきます。

聖書を読みましょう！

11月19日～26日は聖書週間

神の愛を知り、神の心を受け取るために、わたしたちは新約聖書と旧約聖書を神のことばとして読み、大切にします。「聖書週間」は、すべての人、とくに信徒が、この聖書に「より強い関心を持ち、親しみ、神の心に生きる」ようになるための週間です。

各教区では、聖書への関心を高め、より親しむために、講演会、研修会、展示会などの催しが計画されます。このような催しに進んで参加するとともに、自分でも積極的に聖書に近づきましょう。たとえば、毎日欠かさず聖書を一章ずつ読む方法や、ミサにあずかれなくても、ミサの聖書朗読の当日分を毎日読む方法も勧められています。



追田眞理子
玉里教会に嫁いで26年。2人の息子の洗礼・初聖体・堅信・成人式にと、成長と共に家族で過ごしてきた教会です。
今回、50周年の



きゅうやくじだい
旧約時代では
かみさくやくそく
神様が約束され
すくぬしあらわ
た救い主が現れ
ることを
ししそんそん
子々孫々と時代
を越えて待ち続

託身たくしんの秘儀ひぎ（受肉じゅにくの神秘しんぴ）と言いいま
す。先月せんげつの「神様かみさまと被造物ひぞうぶつの
階層構造かいそうこうぞう」を思おもい起おこしてください。
神様かみさまが人間にんげんになるといふことは通常つうじょうな
絶対ぜったいに有あり得えません。
ではこの事實じじつをどう考かんがえたらよいの

イエスは神様であり人間でもある方

めないでしょう。

けました。これは救い主メシアを
受け入れるための準備の期間であ
ったと言えるでしょう。確かに
人間は神様の御旨を誤解していたことも
ありました。しかしそれは救い主よつて
正されるのです。そのために神様がこの
世に遣わされたのがイエス様なのです。
これは神様の無限と人間の有限が結
び付いたという人類の歴史の中でたつ
た一度の出来事です。このことをご

でしようか。イエス様はまことの神様ですがそれだけにとどまりません。また神の独り子ひとごですからまことの人間ではあつても私たちとわたしへ同じようなおな人間ではないのです。人間の言葉ことばを理解りかいし、それを話すためには人間として生うまれなければなりません。しかしイエ

る方 この神様でもあり人間でも
ある方^{かた}がこの世に生まれる
という矛盾^{むじゆん}が聖霊^{せいれい}によつて処女マリア^{おとめ}
の胎内^{たいない}に宿^{やど}ることによつて実現^{じつげん}したの
です。信仰宣言^{しんこうせんげん}を思い起こしてくださ
い。「主は聖霊によつて宿り、処女マ
リアから生まれ」とあります。この短^{みじ}
い言葉にはとても深い意味^{いみ}があつたの
です。

ス様が普通ふつうの人間と同じように母親ははおやから生まれたとしたら単たんなる人間に過すぎません。人間から動物どうぶつは生まれませんし、動物から人間が生まれることもありません。もしそのような動物や人間がいたとしても誰だれも救い主としては認みとめ